

**令和7年度 農山漁村振興交付金(地域資源活用価値創出対策)のうち
地域資源活用価値創出推進・整備事業(農福連携型)
事業実施主体 評価一覧**

1. 事業評価の実施

令和7年度に実施された「農山漁村振興交付金(地域資源活用価値創出対策)のうち地域資源活用価値創出推進・整備事業(農福連携型)」の事業について、「農山漁村振興交付金(地域資源活用価値創出対策)実施要領(令和4年4月1日付け3農振第2921号農林水産省農村振興局長通知)別記5の第9の2の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 事業評価結果の総括

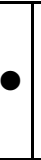
令和7年度に交付金事業を実施した九州農政局内の2地区について、取組の実施状況、成果等を総合的に評価した。
その結果、優良と認められる地区が2地区との評価結果となった。

また、今年度の評価対象ではないが昨年度に重点指導の対象となっていた3地区について、重点指導の結果を評価した。その結果、来年度も引き続き重点的な指導、助言等を行う地区は2地区であった。

3. 各地区の評価結果

5件(うち3地区は、今年度評価対象ではないが昨年度重点指導となっていた地区)

農政局等	都道府県	市 町 村	事業実施主体名	事業実施段階								評 価	評 価 コ メ ン ト
				R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8		
九州局	熊本県	錦 町	合同会社あぐり税所			●	●	■ ▼	▲ ▼	▲ ▼	△		今年度は評価対象外であるが、昨年度に指導・助言を行っている。目標年度の目標値において、雇用及び就労・売上・交流人口は昨年より改善が見られるものの低調である。 農福連携を推進するために、イチゴや唐芋作業の簡易なマニュアルを作成したことにより作業効率が上がり、弁当の事業が好調なことから売上げの増加につながった。イチゴの収穫体験や唐芋の農業体験により交流人口の増加につながったことは評価できる。 今後は利用者がスムーズに作業を行えるように、専門家の意見を取り入れたマニュアルの作成を望む。
九州局	熊本県	錦 町	社会福祉法人豊心の里			●	●	■ ▼	▲ ▼	▲ ▼	△		今年度は評価対象外であるが、昨年度に指導・助言を行っている。目標年度の目標値において、交流人口は約7割の達成であり、売上は約9割の達成であったが、障がい者の雇用・就労数が目標を大きく下回っている。また、実施体制は、マニュアル作成までできる和牛畜産の専門家を見出すことができない等、十分機能しているとは言えない。 今後は、畜産業における農福連携のロールモデルを構築するという当初の目的が達成されるよう専門家に相談する等効果的な取組及びマニュアルの策定を行い、販売先の開拓を行うことにより工賃向上の目標の達成に向けて、着実に計画を取り組むよう努められたい。
九州	熊本県	益城町	株式会社ピアサポート				● ★	●	■ ◆ ▼	▲			今年度は評価対象外であるが、昨年度の重点指導の対象となったもの。主要な取組は計画どおりに実施されている。事業目標の雇用・就労、売上げ、交流人口については昨年より改善が見られる。 LED植物工場の施設管理や農福連携に特化したマニュアルを作成し専門家からの意見を取り入れながら、ブラッシュアップして作業効率の向上に努め、売上の向上につなげてほしい。
九州	熊本県	山都町	すこやか自然農園株式会社					● ★ ▼	●	■ ◆		A	売上げについては前年度から「c」評価であるものの、R7年度は、整備した施設を生かしての障がい者の通年就労、収穫した農産物の販売の他、加工品の製造・販売等により、利用者の工賃の向上等への改善が見られる。 今後も専門家から助言を受け、農福連携のマニュアルを作成し、産地に合った作物の選定や商品開発を行うこと及び更に販路の開拓を行うことにより、工賃の向上や、障がい者の就労の増加に取り組まれたい。

九州局	鹿児島県	霧島市	株式会社 心和									A	明確な課題をもって事業に取り組み、それに応じた取組を実施し、実績もあげている。講習により得られた技術・知見をマニュアルに残し売上の増加につないでいく等、着実に事業を実施している。 今後もマニュアルのブラッシュアップを行い、身に着けた技術・知識等を生かして就労者の工賃のアップや、地域との交流を深めるとともに、農福連携の普及にも期待したい。
-----	------	-----	---------	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---

(注1)「事業実施段階」の凡例：ソフト対策 ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)
ハード対策 ☆…交付対象年度(計画) ★…交付対象年度(実施済) ◇…目標年度(計画) ◆…目標年度(実施済)
重点指導 ▼…重点指導(通知) △…重点指導(結果報告予定) ▲…重点指導(結果報告)

(注2)「評価」の区分： A…優良 B…良好 C…低調 評価対象外…評価対象外

4. 第三者機関の意見聴取

農山漁村振興交付金(地域資源活用価値創出対策)実施要領(令和4年4月1日付け3農振第2921号農林水産省農村振興局長通知)別記5の第9の3の規定に基づき、第三者機関である「農山漁村振興交付金(都市農村交流等)評価委員会」を組織し、評価に当たり意見の聴取を行った。評価委員会の委員及び開催概要は以下のとおり。

【評価委員会 委員】

委員長:松添直隆(熊本県立大学教授)
委員:須川一幸(㈱地域振興研究所 代表取締役)、家入ひとみ(元熊本県職員)

【令和8年度評価委員会の開催概要】

第1回評価委員会 1 日 時 :令和8年7月17日(金) 14:00～16:30 2 場 所 :熊本地方合同庁舎A棟3F農政第1会議室 3 議事概要 ① 令和7年度評価対象地区について事業評価の運用の主な変更について説明を行った。 本年度の評価方法について、説明を行い了承を得た。 ② 令和7年度評価対象地区の評価及び取組状況について 令和7年度を目標年度とした2地区において、取組概要、評価案に関して説明し、質疑応答を行った。 4 主な意見 ① 賃金の向上のため販売先の開拓を積極的に行うこと。 ② 農福連携であるので、障がい者の生きがいや、やりがいの向上につながる取組を行うこと。 ③ 農福連携であるので、障がい者の顔の見える取組みであること。
第2回評価委員会 1 日 時 :令和8年8月17日(月) 14:15～16:40 2 場 所 :熊本地方合同庁舎A棟3階農政第2会議室 3 概 要 ・第1回評価委員会における質問への回答及び評価結果案 ① 令和7年度に交付金事業を実施した2地区の評価案等に関して、了承を得た。 ② また、今年度の評価対象外ではあるが、昨年度に重点指導対象となっていた3地区の重点指導結果に関して、了解を得た。 4 主な意見 ① 農福連携ではマニュアルの作成と提出は必須ではないが、農作業用の栽培マニュアル、指導員用の声掛けマニュアル、障がいに応じた個別マニュアルと詳細なマニュアルを作成してほしい。農作業は気候や災害と隣り合わせであるため、熱中症や災害の避難マニュアルも作成してほしい。 ② 事業が終了しても、販売戦略に関して情報収集に努め、販路を拡大すること。 ③ 取組が低調な事業者に対しては事業承認者から適切な指導を行うこと。

事業実施主体名: 合同会社あぐり税所

令和8年8月17日 作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農福連携支援事業)	取組概要(一)
熊本県 球磨郡錦町	令和3年	・農作業及び6次産業化関連業務整理 ・指導方法と労務細分化のマニュアル作成 ・先進地事例視察	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

・農福連携を推進するために、唐芋生産拡大により障がい者雇用・事業所委託で県の障がい者支援を通して人吉球磨の事業所とマッチングを行うものの、障がい者の雇用・就労にはまだ繋がっていない。
・定植から収穫までの各作業において、利用者がスムーズに作業を行えるようなマニュアルを作成していないことから、内容が充実したマニュアルの作成を望む。
・これまでの取組の中で出てきた課題に対して、適切なマニュアルの作成をはじめ、販売先の開拓を行うなど取組の確実な実施により、売上げや工賃の向上等の目標の達成に向けて努力されたい。

2. 低調と評価された要因

目標の雇用及び就労が全く伸びていないことや売上げや交流人口も前年より大きく減少している。

3. 目標達成に向けた方策

マニュアル作成をイチゴ作業など新規で作成し、農業を行っている事業者(絆・ブルーバード・マロン工房)と積極的に情報交換を行っている。
イチゴの定植・バック詰め等の作業を依頼しているので、就労までもっていきたい。農業体験を通して、障がい者の方との交流を行い体験してもらうことで農家への雇用につなげたい。
直売所では、盛り付け販売のサポート、イベントでの販売のサポート・イチゴ等農産物の販売等を人吉球磨以外でも行っているの、事業所で販売の経験者が居ないか、紹介してもらい、体験してもらうことが必要だと思うので、支援学校も含め話をもっていきたい。
直売所・イベントでの販売会等のマニュアル作成を早急に行いたい。

4. 改善状況

・障がい者の雇用及び就労は、4名に増加(前年度比+2名)。
7年度から開始した唐芋の苗生産に係る作業をB型事業所(絆)に依頼。就労までは至っていないが、作業に当たっては簡単なマニュアルを作成し、効率的な作業につながっている。
直売所では弁当の製造・販売が好調であり、盛り付け作業や3箇所(役場・JA・保育所)での販売補助に人手を要していることから、昼と夕方の障がい者の雇用を計画している。
また、イベント時の販売補助も必要であるため、障がい者雇用について事業所と相談を進めている。
今後就労に向けて、事業所とのマッチングを積極的に行い、作業委託から就労へつなげていく意向があるが、人吉球磨地方の事業所は他の委託事業で多忙な状況にあり、雇用の実現には課題がある。
・直売所売上は前年から大幅に伸びており弁当の製造・販売が好調であるが、目標年度の目標値に対しては28%と、達成に至っていない。
・交流人口は、40名に増加(前年度比+10名)。令和7年度も唐芋の農業体験やイチゴの収穫体験を実施し、障がいの有無を問わず多くの参加者との交流が図られた。焼き芋天ぷら・芋のねあげ等イベントで大変評判が良いので、今後は、コロナ禍前にマロン工房と開催していた農福マルシェの再開を目指し、農福連携のさらなる推進を図る予定である。

事業実施主体名: 社会福祉法人 豊心の里

令和8年8月17日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農福連携支援事業)	取組概要(一)
熊本県 錦町	令和3年度	・和牛畜産技術の整理 ・和牛畜産技術のマニュアル整備 ・先進地視察	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

令和7年度は、評価委員会の評価コメントを踏まえ、実施体制の確立と目標達成のに向けた実効ある取組計画の策定、着実な実施を図ること。
多様な分野の専門機関と連携することにより、マニュアルの充実を図り、畜産における農福連携のロールモデルを構築してほしい。
販売先の開拓を行うことにより工賃向上の目標の達成に向けて、着実に計画に取り組むこと。

2. 低調と評価された要因

目標において、交流人口は約7割の達成率であったが、障がい者の雇用・就労数及び売り上げが目標を大きく下回っていること。
また、実施体制は、マニュアル作成までできる和牛畜産の専門家を見出すことができない等、十分機能しているとは言えないこと。
今後は、畜産業における農福連携のロールモデルを構築するという当初の目的が達成されるよう効果的な取組計画及びマニュアルの策定を行うこと。

3. 目標達成に向けた方策

当初の目的である「和牛畜産における障がい者等の未経験者でも従事できるようなマニュアルを策定するために、まずは知り合いでもある農福連携の第一人者である濱田健司教授(東海大学)に相談してみることにしたい。そこで、和牛畜産の専門家を紹介いただければ、そこを訪問して指導を仰ぎたいと考えている。

4. 改善状況

今年度(令和8年度)において、和牛畜産の専門家の指導・助言の下、マニュアルの改訂作業(作業の細分化)を行う計画であったが、改正に至っていない。
売上は前年度より大幅に改善され目標年度の目標値に対し93%となっている。障がい者等の雇用及び就労については、目標値の10人に対し3人に留まっている。

事業実施主体名: 株式会社 ピアサポート

R8年8月17日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農福連携支援事業)	取組概要(整備事業)
熊本県 益城町	令和4年度	・イチゴの栽培技術の習得と先進地視察 ・加工品の開発等 ・販路の開拓	LEDによるイチゴの植物工場を整備

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

事業実施の最終年であるが、令和6年度も生育不良により売上がない状況。
 保守管理の専門会社等と連絡を密に行い栽培技術の向上や環境改善に取り組み、就労者の増加や売上げの拡大に努められたい。
 取組状況の評価はBであるが、事業実績は売上と交流人口が「c」判定のためC評価。実施体制について、連携体制は構築されているものの生かされていないことから評価はBである。
 このため、総合的評価はCとした。

2. 低調と評価された要因

トラブルの発生後、システムの改善や栽培管理の見直し等を行ったものの、令和6年度もLEDの故障により、イチゴが生育不良となり売上がない状況。

3. 目標達成に向けた方策

令和7年度には生産体制強化に向けてLED設備の追加購入を一部実施し、栽培環境の改善と定植苗数の拡大を進めた。
 支援学校の実習生の受入れを行った。
 農福連携の実践と人材育成にも取り組み。新たに新規販売先も確保し、夏季限定での販売を行った。

4. 改善状況

令和7年度は現販売先の紹介により新たに飲食店と繋がることができ、夏季限定であったが苺を販売した。
 令和8年2月に再定植を実施し、その直後より作業日増加、および作業員の増員を実施し、就労者はほぼ固定となり、日々管理体制を強化している。
 加えて当初より全従業員の清掃・衛生管理・栽培管理の徹底により、施設内環境は大きく改善されている。
 LEDについても令和7年度に一部追加購入したLEDで苺が出来ることが実証出来たため、残り箇所分の追加発注を行っており今後の生育回復と安定生産に向けた基盤整備が進んでいる。
 作業員を増員したことにより、雇用・就労については雇用1名、就労20名となり目標を達成している。
 交流人口については目標に届いていないが、地域の連携強化の一環として、支援学校実習生の受入れを実施しており、改善が見られる。
 売上げについては、昨年から若干改善が認められるものの低調である。